

ひかり

2018年8月号

日本聖公会 三光教会

第 669 号

〒142-0064 東京都品川区旗の台 6-22-24

電話 03(3781)2554

FAX 03(3781)2544

<http://nssk.org/tokyo/church/sanko/stephen/>

創立 救主降誕 1912 年 (大正元年) 11 月 2 日



St. Mark

そこでは、ごくわずかの病人に手を置いていやされただけで、そのほかは何も奇跡を行うことがおできにならなかった。

(マルコによる福音書 6: 5-6)

神の創造された この世界を守る

司祭 グレース 神崎 和子

今年の夏は例年にならない酷暑の毎日が続きます。「危険な暑さ」等と表現されています。温帯の気候であるはずの日本が今や亜熱帯の気候へと変化したのではないかと疑います。その様な暑さの中、一度雨が降れば今度は、集中豪雨となり多くの被害が出ました。このような気候の変動は日本ばかりでなく、地球規模で起こっているようです。世界の各地で「今までにない猛暑」が起こっています。これらの変化の原因の一つは、色々な所から排出される二酸化炭素によるものが大きな影響を与えているとも言われています。

この現状の中、私たち全聖公会中央協議会 (ACC) の会議で議決された、アングリカンコミュニオンの「宣教の5指標」を再度注目しなければならぬと思います。その指標の第5は以下のものです。それは「被造物の本来の姿を守り、地球の生命を維持・再生するため」に努力すること」と言うものです。

この第5の指標は実は1984年ナイジェリアで決められた第4の指標の後、1990年ウエールズの会議で議決され加えられたものです。今まさにこの第5の指標の順守が必要とされているのではないのでしょうか。

旧約聖書の創世記に、神がこの世の創造の有様が記されています。「初めに、神は天地を創造された」(創世記1:1)そして総てのものを創造された神は「神はお造りになったすべてのものをご覧になった。見よ、それは極めて良かった。」(創世記1:31)と記されています。

神は創造された世界を見て「それは極めて良かった」とされたのです。私たちはこの祝福された世界を大切に守り、地上に存在する命を守る努力が求められているのです。たとえ一人の力は小さなものであっても、共に働くことによって大きな力が与えられると信じます。そしてこの与えられた世界を大切にすることこそが今求められているのです。神が祝福されたこの世界を守り新たにするための努力をしてまいりたいと存じます。

8月・9月の予定

◆ 8月	12 日 (日)	聖霊降臨後第12主日
	18 日 (土)	ヘレナ
	19 日 (日)	聖霊降臨後第13主日
	20 日 (月)	修院長教会博士ベルナルド
	24 日 (金)	使徒聖バルトロマイ日
	26 日 (日)	聖霊降臨後第14主日
	28 日 (火)	主教会博士オーガスチン
◆ 9月	2 日 (日)	聖霊降臨後第15主日
	3 日 (月)	9月逝去者記念礼拝 (聖餐式)
	4 日 (火)	聖書に学ぶ会 (新約)
	8 日 (土)	おとめ聖マリヤの誕生日
	9 日 (日)	聖霊降臨後第16主日
	11 日 (火)	聖書に学ぶ会 (旧約)
	13 日 (木)	殉教者主教シプリアン
	14 日 (金)	聖十字架日
	16 日 (日)	聖霊降臨後第17主日
	18 日 (火)	聖書に学ぶ会 (新約)
	19 日 (水)	主教セオドル
		(秋期聖職按手節)
	20 日 (木)	オーストラリア、オセアニアの殉教者
	21 日 (金)	福音記者使徒聖マタイ日
	22 日 (土)	(秋期聖職按手節)
	23 日 (日)	聖霊降臨後第18主日
	25 日 (火)	聖書に学ぶ会 (旧約)
	29 日 (土)	聖ミカエルおよび諸天使の日
	30 日 (日)	聖霊降臨後第19主日

□日本聖公会
沖縄週間／沖縄の旅
に参加して

今年も6月22日から25日「命（ぬち）どう宝」を標語とした沖縄の旅が行なわれました。全国から約35名（私たち夫婦は5回目）、沖縄教区の参加者を併せて約60名が参加しました。

今回は、伊江島で戦争体験者の話を聞き、阿波根昌鴻（あはこん・しょうこう）さんが作った「わびあいの里を訪ねることが主でした。

伊江島は東洋一といわれた軍飛行場が建設され、守備隊が配備されたために米軍の主要な攻撃目標とされ、1945年4月の五日間で、住民1500名を含む4700名が犠牲となりました。その中にはガマ（洞）の中で爆雷を爆発させて集団自決した100人以上の方が含まれています。

阿波根さんは戦争で息子さんを亡くされ、戦後は米軍に土地を取り上げられ、基地反対の島ぐるみ闘争を始めた方です。その中で、平和を実現するためには戦争を根

本から勉強して原因を知り、戦争がいかに無惨ものかを知ってもらう活動が大切であると考え「わびあいの里」を作りました。「わびあい」というのは、争いの原因は、相手を許すことのできない寛容のなさからくるもので、お互いがわびる心によつてしか、平和で豊かに暮らすことはできない、という考え方です。この里には、反戦平和資料館と、地域の障がい者や老人のための、やすらぎの家があります。

阿波根さんは2002年101歳で亡くなり、最後まで側近にいた女性が話をして下さいました。彼女は、軍は人を守らない、軍の施設があるから攻撃を受けたのだ、と話し、これまで一度も戦後と思ったことはなく、いつもどこかで戦争を感じていると言います。今でも伊江島の35%は米軍用地です。

阿波根さんは17歳で洗礼を受け、資料館の壁には「すべて剣を持つものは剣で亡ぶ。基地を持つ国は基地で亡ぶ、核を持つ国は核で亡ぶ」と書かれています。館内には阿波根さんが集めた葉莢、不発弾、模擬弾、農具、落下傘、軍服、支

援の寄せ書きなどが所狭しと置かれていました。

阿波根さんは「理解は力なり、無欲は力なり」と言い、非暴力を求めました。

三日目には北谷諸魂教会で行われた「慰霊の日」礼拝に出席し、沖縄戦で亡くなられた方や苦難を強いられた方たちのために祈りを献げました。全国の方と行動を共にすることで、多くの聖職、信徒の方達と、親しい交わりをすることができました。ぜひ多くの方に参加していただき、じかに沖縄を見ていただきたいと切望します。

（記・安次嶺佳子）



▲伊江島の反戦平和資料館

写真・安次嶺昭男兄

〈テイルーム企画〉

長谷川正昭司祭を囲んでのお茶のひととき

7月15日の主日の午後のテイルームは、34名の参加のもと、長谷川先生のお話を伺いました。

お話は、師に接する誰にも自分が一番先生に愛されていると感じさせたという竹田鐵神父のお話に始まりました。宗教の陥りやすい穴は「排他的絶対性」に捉われること。そのことが過去の宗教戦争などの誤りを生んできたのです。

1960年の第二ヴァチカン会議と、1980年代の宗教多元主義の出現によって、キリスト教は世界の諸宗教の一員として相対的な存在である、という認識が持たれるようになりました。と同時にキリストは「私の神」として絶対的な存在である、という認識が大事です。冒頭の竹田先生のお話は、多くの価値観を受け入れることの大切さを説かれたように思いました。禅宗の座禅の瞑想に相通ずる「黙想」を私達も大事にしたいと話され、忙しい生活の中で静かに心を澄ませ、考える「時」を持つことの大切さを思い出させて頂い

たひとときでした。

(記・加藤由喜子)

男子会だより (7月)

特製のバナナ・チョコパンとホットドッグのお味はいかがでしたか(8月5日昼食)。今回は売り上げと男子会の会計から合わせて、緊急支援としてお捧げしました。

次にご案内しているのはチャリティBBQです。募金は釜石支援センター「望」へ、支援は今回が最後となりますので、参加が無理な場合は募金だけでも受け付けています。

10月のバザー、11月の創立記念日の次は恒例の秋の日帰り旅行を計画中です。6月に第一回の下見をし、9月に第二回の下見を経て具体的な計画を立てご案内を予定しています。行き先は小江戸で名高い「川越」です。ぶらり散歩に食べ歩き、うな重・武蔵野鰻鮓や天プラ・郷土飯のイモご飯もイケてます。最後は赤いレンガのシックな建物の川越基督教会を訪問しようと考えています。東横線から副都心線を経由して東武東上線が一本で繋がっている便利さを体験してみませんか。(記・頼仰史)

教会のお掃除にご協力を

聖堂内外のお掃除の協力者が少なくなりました。土曜日の午前10時から1時間程ご奉仕ください。ご協力いただける方は直接参加してください。

はじめて教会にいらした方へ

礼拝様式に馴れない方は椅子にお掛けになったままで結構です。
●礼拝中の献金は、信施金として伝道のために献げられるものです。金額は自由です。
●わからない点は隣の席の者か案内係にお聞きください。

礼拝のご案内

■主日礼拝

午前 7:00 早祷・嘆願
午前 7:30 聖餐式
午前 9:00 ステパノ会
(日曜学校)礼拝
午前 10:30 聖餐式
午後 4:00 夕の礼拝

■平日礼拝

月曜日から土曜日までは、
毎朝 6:30 の早祷に引き続いて聖餐式